来所報告書

年　　月　　日

注１：下ページの**記入例を参考の上**、来所ごとにご記入ください。学内利用の方は、１ヶ月単位でまとめてご記入ください。

注２：記入後、PRIUS事務、受入担当教員へもcc送信ください。

|  |
| --- |
| 氏名（所属・職 or 学年） |
| E-mailアドレス： |
| PRIUS課題番号： |
| 旅費支援の有無： |
| 来所期間： |
| 受入担当者名： |
| 使用装置：[装置一覧](https://www.grc.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/12/PRIU%E8%A3%85%E7%BD%AE%E3%83%BB%E6%8A%80%E8%A1%93%E6%8B%85%E5%BD%932023.pdf)を参考に装置番号と装置名を選び、使用日数・時間（使用ノートに記入した時間を時単位で、「分」は切上げで1時間とする）、および使用者の延べ人数（人数×日数，例．1人×5日＝5人）を記載してください。  （装置一覧:[https:www.grc.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/12/PRIU装置・技術担当2023.pdf](https://www.grc.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/12/PRIU装置・技術担当2023.pdf)) |
| 来所の目的・実験内容（簡単で結構です）：  来所に関する要望等（任意）： |

記入例）　　　　　　　来所報告書

2023年　4月　7日

注１：下ページの**記入例を参考の上**、来所ごとにご記入ください。学内利用の方は、１ヶ月単位でまとめてご記入ください。

注２：記入後、PRIUS事務、受入担当教員へもcc送信ください。

|  |
| --- |
| 氏名（所属・職 or 学年）  松山 太郎（東京大学理学部・教授）  愛媛 花子（京都大学理学部・D2） 　　←来所者全員の氏名・所属を記入 |
| E-mailアドレス：matsuyama@...　　←代表者分のみ記入 |
| PRIUS課題番号：2014A01　　　←PRIUS（共同利用）課題の場合のみ記入 |
| 旅費支援の有無：有 or 無 |
| 来所期間：2014年5月20日～5月24日 |
| 受入担当者名： 入舩 徹男　　　←GRC内の担当スタッフ名を記入 |
| 使用装置：[装置一覧](https://www.grc.ehime-u.ac.jp/wp-content/uploads/2022/12/PRIU%E8%A3%85%E7%BD%AE%E3%83%BB%E6%8A%80%E8%A1%93%E6%8B%85%E5%BD%932023.pdf)を参考に装置番号と装置名を選び、使用日数・時間（使用ノートに記入した時間を時単位で、「分」は切上げで1時間とする）、および使用者の延べ人数（人数×日数，例．1人×5日＝5人）を記載してください。  （2）超高圧発生装置（Orange-3000）、2日、24時間、 [4人（2人×2日）]  （10a）電界放出型走査電子顕微鏡 (FE-SEM-EDS)、1日、 2時間、 [2人]  （16）微小領域X線回折装置、1日、 5時間、 [ 2人] |
| 来所の目的・実験内容（簡潔で結構です）：  Mg2SiO4カンラン石を出発物質に用いて、その高圧相wadsleyiteの合成を15 GPa、 1200℃の条件で行った。試料回収後、微小領域X線回折、及び電子顕微鏡で相の同定を行い、完全に相転移したことを確認した。この試料は今後、弾性波速度測定実験に使用する予定である。  来所に関する要望等（任意）： |